

聞十方

第
12
号

教区教化テーマ

創造と回復

温もりのある

お寺をとともに！

発行日 2023年6月30日
発行者 山陽教区教化委員長 柳野 大輔

発行所 姫路市地内町1番地
編集 広報・情報発信部門

教区教化委員会3年間を振り返って

このたび、本年5月末をもって教区教化委員会の3カ年の任期が満了し、6月より新たな委員会が組織されました。

まずもって、これまで教区教化事業に携わっていただいた委員の皆さまに厚くお礼を申し上げます。今期においてはコロナ禍での事業実施となり、計画を実施することの難しさ、呼びかけを継続していくことの大変さを実感した3年間でありました。また、教化方針にある「共に集い、聞き、語る」ことの大切さを改めて知らされる期間でもありました。

教化委員会の任期末を迎えるにあたり、昨年末から約半年間にわたって教化推進本部及び各部門において事業の点検総括を行いました。今号の『聞十方』では、総括の内容を元に、本部長並びに各部長より総括及び次期への申し送り事項を紹介させていただきます。それぞれ多岐にわたる項目を総括書としてまとめましたが、誌面の都合上一部のみの掲載となりますことをご承知ください。

各部門での引継ぎを十分に行い次年度からの事業へと展開することで、このたびの点検総括を実りあるものとしてまいりたいと思います。

教区の皆さまにおかれましては、ぜひ今後の教化事業にご参加をいただきますとともに、ご意見・ご感想をお届けいただき、共に教区教化を創造してまいりたいと思います。

山陽教区教化委員長 柳野大輔

組教化委員会

男女共同参画推進委員会

解放運動推進協議会

聞法伝道塾

【業務】

- (1) 教区教化方針の立
- (2) 中期・長期教化研修
- (3) 教化予算の試算に
- (4) 各部門・関係団体と
- (5) 緊急に取り組むべき
- (6) 教化に関する相談
- (7) その他必要な事項

【構成】

教化推進本部長、教区会
各部門部長(5名)、委員

「人の誕生」

青少幼年部門

【部門理念】

次世代を担う青年・少年・幼年の啓発・育成と教化の場の創造に取り組む。

【業務】

- ① 青年・少年・幼年の啓発・育成及び若手スタッフの育成
- ② 各寺子ども会・仏青等の開設支援
- ③ その他

【構成】 8人以内

同朋の会推進部門

【部門理念】

同朋の会(女性同朋の会含む)の結成・充実に向けた取り組み、及び門徒並びに一般の教化の場の創造に取り組む。

【業務】

- ① 同朋の会(女性同朋の会含む)の結成と充実
- ② 推進員養成講座の企画実施及びスタッフの育成
- ③ 門徒及び一般の教化
- ④ その他

【構成】 8人以内

教学・研修

【部門理念】

住職・教師・僧侶・坊守造に取り組む。

【業務】

- ① 教学及び教化伝道
- ② 声明作法及び儀式
- ③ その他

【構成】 8人以内

化委員会 組織図

委員長(統理)

推進本部

案に関する事項
計画の立案に関する事項
関する事項
の連携及び調整に関する事項
課題及び事業に関する事項
に対する応答に関する事項

議長、教区門徒会長、
及び本部長が推薦した者 6名
合計14名

関係教化団体

坊守会
山推協
仏教青年会
児童教化連盟
大谷保育協会
教化研究会
教誨師会
保護司会
准堂衆会
コールサンガ

と「場の創造」

情報収集・発信

部門

社会問題部門

広報・情報発信部門

の育成と場の
の研鑽
の研修

【部門理念】

教区が大切に取り組んでいる非核非戦・阪神淡路大震災・ハンセン病問題をはじめ、様々な社会問題を真宗の教えに基づき自らの課題として取り組む。

【業務】

- ①非核非戦・阪神淡路大震災・ハンセン病問題等をはじめ様々な社会問題に関する学習
- ②その他

【ハンセン病療養所交流部会】

- 【業務】①ハンセン病療養施設との交流
②その他

【構成】10人以内

【部門理念】

教化情報の発信と共有に取り組む。

【業務】

- ①教化情報の発信
- ②教化冊子教材の作成・収集
- ③その他

【構成】5人以内

教

化

推

進

本

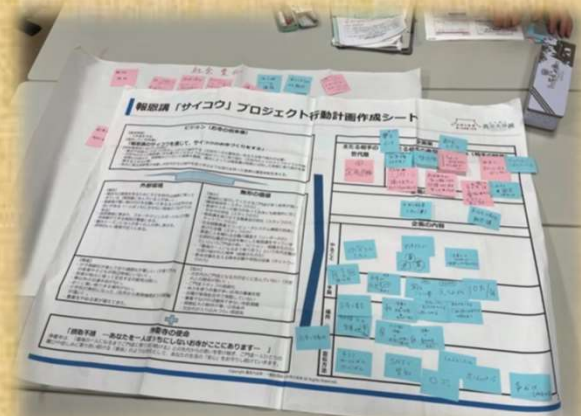
部

教化委員研修

2021年10月26日

講師 金石 潤導 (北海道教区開正寺/
前北海道教区教化本部長)

講題 『教区教化委員会の願いと役割について』



寺院活性化支援員講習 (基礎)

2022年10月6~7日

2022年12月13日

講師 橋本 真 (企画調整局参事)

教区教化委員会総会 (臨時含む)

2020年6月25日・2021年6月22日

2022年6月24日・2022年12月15日 (臨時)

教化推進本部会議

随時開催



3年間を振り返って

今期の教区教化委員会は3年前、コロナ禍の中での始まりでした。

教化推進本部は、前期の事業精査を経て、流れを確認しながら全体調整をし事業を推進していく本部であります。しかし当初はコロナ禍により対面での全体総会開催も難しく、一体感が得にくい状態でありました。その後コロナ禍における開催指針がしめされ、またWEBを活用して会議が開催されるなど、工夫しながらの再開となりました。

教化事業・研修会などもWEB併用で開催され、新たな教化方法が確立されました。

その中で教区慶讃記念事業として、長年の懸案であった法話者育成機関である「聞法伝道塾」を開設いたしました。また慶讃事業であります、慶讃事業委員会と連携しながら「親鸞聖人讃仰講演会」「同朋のつどい」も開催いたしました。

また、予定しておりました教区教化委員の上山奉仕は叶いませんでしたが、教区教化委員研修として、2021年度は北海道教区の金石潤導師にお越しいただき「教区教化とは」をテーマに学び、2022年度は本山の寺院活性化支援員基礎講習を受講し1カ寺1カ寺の教化の可能性について学びました。

教化委員の本分は所属する部門の事業推進であります、もう一方では率先して各教化事業に参加して自身の学びを深めることでもあります。その点、全体にそのことが動きとして少なかったと思います。

各部門とも事業推進が難しい中、苦勞していただきました。

教化推進本部長 日野雅範

部員紹介

(任期：2020年6月1日～2023年5月31日)

委員長	：	榎野	大輔
本部長	：	日野	雅範
副本部長	：	栗栖	寂人
部員	：	谿口	直子
		邨上	了圓
		西村	くるみ
		廣住	美津子
		寺川	大雅
		藤本	浩之
		北浦	康至
		各部門	部長

本部理念

部門統括・調整、方針立案、緊急に取り組むべき課題及び事業に取り組む。

青

少

幼

年

部

門

FCプロジェクト学習会

2020年10月29日

講師：渥美 藍
(FC参加者)

2022年5月26日

講師：藤内 淳心
(仙台教区)



児童得度前研修会

共催：教区准堂衆会

2023年5月13～14日

おはなし

河野 大介 (部門員)

おつとめ 稽古

赤松 信行 (准堂衆会)

本谷 廣 (准堂衆会)

各組青少幼年教化担当者研修会

第1回：2022年5月12日

第2回：2022年12月1日



「子どものつどいin東本願寺」団体参拝

共催：教区児童教化連盟・教区仏教青年会

2023年5月5日



3年間を振り返って

コロナ禍において始まった任期において、限られた状況の中で実施できた事業、できなかった事業があった。そんな中で、新たに始まった「各組青少幼年教化担当者研修会」については大きな歩みの始まりだったのではと感じている。これは前任期の事業精査によって、青少幼年部門の役割を「子どもと出会う場を開く」ことから「子どもとの出あいの現場を支える」ことへ重点を移していった結果始まった事業である。各組から選出された担当者が一堂に集い、交流を通してそれぞれの青少幼年教化の歩みや思い、また各々の状況や悩みや不安を確かめ、共有し、現場での活動の支えとなるべく実施をした。研修会で聞き取った現場の要望を受け止め、教区事業の展開を考えていくこともでき、今後も教区青少幼年部門の基幹となる事業であると感じている。

青少幼年部門のみならず様々な事業において、組や地域や寺ごとに、それぞれ違った事情や悩みがある中で、また今後の教区改編を視野に考えたとき、大きく強固な1つの組織を作るより、現場に人が生まれ、多様な現状を教区がどう支え、サポートしていけるかが求められていくのではないかと感じている。

青少幼年部門に縁をいただき、様々なことを感じ考えさせられましたが、自分が自分勝手に理想の寺院像を思い描いたとき、その寺院には年齢関係なく子どもや若者がいる。このことが「私にとって青少幼年教化とは」の現時点での答えであるような気がしている。

青少幼年部門部長 湯朝良尚

部員紹介

(任期：2020年6月1日～2023年5月31日)

部長	湯朝	良尚
副部長	惣持	留理
部員	山科	立人
	木村	慎
	廣瀬	恵美
	青山	祐一
	河野	大介

部門理念

次世代を担う青年・少年・
幼年の啓発・育成と教化の
場の創造に取り組む。

同朋の会 推推部門

教区全門徒大会

船場別院本徳寺
2020年11月16日
講師 真城 義麿 (四国教区)



赤穂別院妙慶寺
2022年4月21日
講師 日野 雅範 (第4組)



広島別院明信院
2022年12月7日
講師 長坂 壽一 (安芸南組)



同朋の会結成サポート

2022年5月18日
講師 三島 清圓
(岐阜高山教区)



同朋の会推進講座

赤穂組 講師 名和 達宣 (第3組)
本講座 5回
後期教習 2022年6月11~13日

帰敬式法座

2022年
12月22日
2023年
1月27日
2月15日

講師
和田 隆彦
(安芸南組)



3年間を振り返って

教区教化の意義を改めて考え直す3年間となった。同朋の会推進部門としては、一ヶ寺一同朋会に向けての具体的な事業をなかなか進めることができず、道半ばで次期部門員に託す形となってしまった。それどころか同朋会の意義や定義、発足に至る条件や手順、自立、継続の方法。そういうものをどう手助けしていけるのかという、まず部門内で共有すべき課題を三年かけても共有しきれなかったというのが正直な感想である。それぞれ立場の違う者が集まり一つのことを決めていくのは本当に難しい。大事にしているものがそれぞれ違うからだ。後半は分割会議やワークショップを活用するなど工夫してみたが、本当に意味あるものに向かっているのか疑問も残った。悪戦苦闘の中で確かめられてきたのはやはり小手先の客寄せ事業や企業の改革をするのではなく、聞法の土台をしっかりと見直し、再整備していくという根本的な視点だ。上からの事業提供を見直し、地域に出向き寄り添う姿勢を貫くことこそ、その土地の土台を固める力になっていくはずだ。地域の地固めは教区にとっても強固な礎となり、生活に根付いた確かな教えであるからこそ、そこから本当の意味で世界に開かれる宗教となるはずである。何人集まっても、成果が目に見えるものだけを教化事業とするのではなく、長期的な教化(土を肥やし種を撒く)こそ今求められていることとして事業化すべきではないだろうか。今後は同朋の会推進講座を軸とした徹底的なサポート事業を展開することをこの部門の中心に据え、次期の部員に引き継いでいきたい。

同朋の会推進部門部長 西堀秀行

部員紹介

(任期：2020年6月1日～2023年5月31日)

部長：西堀 秀行

副部長：内藤 和裕

部員：廣岡 祐介

嶋津 周平

天川 岳洋

柴田 みつ子

勝間 和子

部門理念

同朋の会の結成・充実に向けた取り組み、及び門徒並びに一般の教化の場の創造に取り組む。

教

学

研

修

部

門

秋安居



2020年10月20～21日

講師 尾畑 文正 (同朋大学名誉教授)

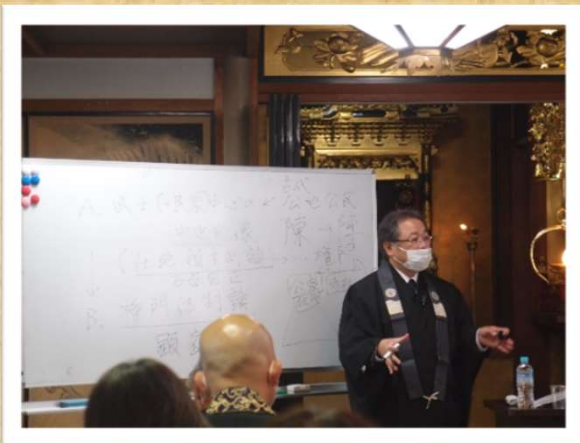
講題 『浄土論註』に学ぶ - 願生浄土の仏道 -



2021年10月18～19日

講師 三木 彰円 (大谷大学教授)

講題 『観念法門試解』



2022年10月24～25日

講師 東館 紹見 (大谷大学教授)

講題 『親鸞聖人伝絵』 考察

儀式研修会

(帰敬式受式伝達講習会)

2022年4月19日

2023年1月19日

講師 坂谷 学稱 (本廟部堂衆)

内容 「帰敬式の意義と儀式執行の作法・荘厳について」



聖教学習会



講師 名和 達宣 (2020年度) 2回

梶原 敬一 (2021、22年度) 各4回

内容 『教行信証』 「総序」 (20年度)

『尊号真像銘文』 (21年度)

『入出二門偈頌』 (22年度)



3年間を振り返って

コロナ禍での教化活動、特に一年目は緊急事態宣言も発令される中延期や中止で事業の方途を模索する年度でした。

聖教学習会では初めてとなる姫路と広島の手元形式を確立しましたが、今後この形式を検証し確かめなければいけません。内容としては三年間通して、親鸞聖人の直接書かれたお聖教の言葉に触れることに拘り、親鸞聖人が求めたこと、そして如来から何が願われ、応えようとされたのかを学ぶことを中心においた学習会としました。

秋安居では、教区として大切にしてきた教学研鑽の歴史もふまえ、三年間対面形式で行いました。あらためてつながりや場を共にして学ぶことの大切さを実感した事業となりました。

儀式研修会では、帰敬式実践運動に基づき、法名を名告り、仏法を中心とする念仏者の誕生を願い、各寺院において帰敬式執行が行えるよう開催いたしました。もう一つの願いとして組でこの研修会が開催できるようにとの思いもありましたが、そこまで至ることはできませんでした。

最後に、教区教化テーマや教化方針、そして教区の三つの重点課題を部員同士で確認することを怠っていた反省点を次期にしっかりと引き継いでまいります。参加者の皆さまありがとうございました。

教学・研修部門部長 栗栖寂人

部員紹介

(任期：2020年6月1日～2023年5月31日)

部長：栗栖 寂人

副部長：後藤 功

部員：宇野 祐慈

後藤 由美子

水野 元

部門理念

住職・教師・僧侶・坊守の
育成と場の創造に取り組む。

教区重点課題学習会

非核非戦

阪神・淡路大震災

ハンセン病問題



2022年4月14日
講師 玉光 順正 (第7組)



2023年1月17日
講師 栗田 暢之
(認定NPO法人
レスキューストックヤード)



2022年8月30日
講師 小松 裕子
(映画「一人になる」
制作実行委員会
/大阪教区)

社会問題学習会

聖教における男女性差別問題

コロナ禍における自死問題



2020年10月12日
講師：山内 小夜子 (本山解放運動推進本部)

2022年
4月27日
5月 9日
12月19日

講師
和田 隆彦 (安芸南組)
梶原 敬一 (姫路第一病院小児科部長/僧侶)
尾角 光美 (一般社団法人リヴオン)



ハンセン病療養所交流会

邑久光明園 (奇数月)
長島愛生園 (偶数月)
愛生園追弔会 (毎年3月)



3年間を振り返って

この3年新しい部門委員の皆さんと社会問題部門の事業をどのように企画し、実施していくのか部門会議の中で議論し決めていくのはとても大切なまた豊かな時間であったと思います。部員それぞれがこれまでの自分の生き方や現在おかれている環境等を基に意見を出し合い、こんな学習会にしたいという願いがちゃんと形としてあらわれたことが何より嬉しかったことです。

もちろんコロナという制限の中での活動でありましたが、そのことがかえて色々なアイデアや工夫が出てくるきっかけにもなりました。とくに教区の3つの重点課題をこれまでとは違う視点でとにかく部門委員自身が魅力的だと感じるような学習会や現地研修が実施できたのではないかと思います。

そして学習会では講師の講義の後、部門委員が登壇しパネルディスカッションという形で会場の参加者にも質問や感想をいただき紹介するという全員参加の学習会を意識して実施してきました。そのことで学習会で確かめられた課題をひとり一人がきちんと持ち帰り、誰かに伝えていくということが少しずつですができたのではないかと思います。

あらためて大きな課題として残ったのは、教区の方々への呼びかけの方法、門徒さん、坊守さん、後住さんたちへ社会問題部門としての願いの表現である各事業をどのように知ってもらうのか、出会ってもらうのか、次期部門委員さんには色々と頑張っていたきたいと思います。

社会問題部門部長 中杉隆法

部員紹介

(任期：2020年6月1日～2023年5月31日)

部長：中杉 隆法

副部長：飛松 五男

部員：泉 純一

北風 智史

房常 晶

發知 道隆

谷川 法海

部門理念

教区が大切に取り組んでいる「非核非戦」「阪神・淡路大震災」「ハンセン病問題」をはじめ、様々な社会問題を真宗の教えに基づき自らの課題として取り組む。

広 報 情 報 発 信 部 門

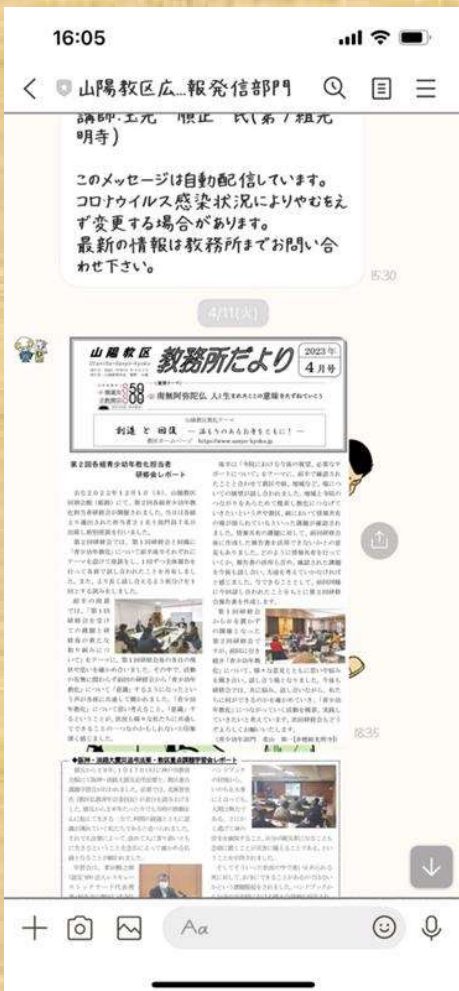
教区ホームページ



教区ホームページ
QRコード



教区公式LINE



教区公式LINE
QRコード

機関紙「聞十方」

発行一覧 Vol.7 : 教区教化委員会再編
各部門紹介

- 別冊 : 青少幼年部門からのお知らせ
- vol.8 : 戦後75年を過ぎて - 広島から教区へ -
- vol.9 : 帰敬式のススメ 全門徒大会に向けて
- vol.10 : 区慶讃事業から本山慶讃法要までの流れ
- vol.11 : 阪神・淡路大震災から問われ続ける
- vol.12 : 教区教化委員会3年間を振り返って



3年間を振り返って

当部門は、情報を集め、発信することをすることはわかっているが、何をどのように集めるのかわからなく、手探りの中で時間が過ぎていった。

当部門はホームページと機関誌『聞十方』があり、取材した内容を発信するツールとして活用することとなった。ホームページは発信する道具であるが、誰に発信するか明確にしなけりばならなかつた。

今までお寺とご縁のなかつた方にお寺と聞法の機会を発信することとした。そのためスマホで閲覧可能にし、見やすい色合いやレイアウトにした。しかし内容が行事案内ばかりになり開催報告ができず、行事開催の内容や効果などの発信ができなかつた。また動画作成やオーガニック検索の向上ができなかつた。

『聞十方』は教化委員会の広報誌として年二回発行した。ペーパーレス化の中、紙媒体の広報も大切なことであると判断した。紙での広報は寺報や同朋新聞がある。それぞれ大切な役割を持っている。特に寺報を発行しているお寺は御門徒との活動が活発であるとの報告がされている。そのことをふまえ内容が案内になるのではなく残る物として相応しているか検討を重ねた。

新たな活動としてLINEを使用した発信も行った。LINE登録者に一方的に情報を送る。特に行事の数日前に再度情報発信し、忘れている行事参加を促した。また、教務所だよりもLINE上で閲覧可能にした。

三年間を振り返れば、広報情報発信部門として、だれに発信するかをもっと考えなければならなかつた。それはホームページを見た人が参加されたとか、新たにお寺にお参りされたということも聞けなかつた。それは広報として機能しなかつたことであると反省している。

どのような情報を集め発信するかということを考えるとき、数百年前からお寺が発信してきた事を学ぶことが大切だつた。先達は聞法を重ねてこられた事を発信していたように思う。つまり新たな方途を考えるのではなく、現代人が何に苦悩し、寺が何を問われているかを考えなければならなかつた。今後は情報内容を精査することを引き継ぎたい。

広報・情報発信部門部長 松江長親

部員紹介

(任期：2020年6月1日～2023年5月31日)

部長：松江 長親
副部長：上岸 佑介
部員：日野 和雅
福永 雅文
泉原 奈都子

部門理念

教化情報の発信と共有に取り組む。

広報・情報発信部門からの お知らせ と お願い

〈教区ホームページ〉

教区ホームページでは、教区教化事業の研修会・公開講座を中心に発信し、また各種申請書のダウンロードも可能です。

なお、教区内での活動情報など掲載希望ございましたら広報・情報発信部門までお問い合わせください。



〈教区公式LINE〉



教区公式LINEでは、ホームページと同じように教区教化事業の研修会・公開講座を中心に発信しています。今後、お問い合わせ機能など機能の拡充を目指します。ぜひ、お友達登録ください！！

〈最後に〉

今期(2023年6月1日～2026年5月31日)、各部門部長及び副部長を紹介いたします。なお、各部門詳細につきましては『聞十方 Vol.13』にて特集予定。

部 門	部 長	副 部 長
教化推進本部	日野 雅範 (第4組善覺寺)	栗栖 寂人 (第2組正行寺)
青少幼年部門	惣持 留理 (安芸南組極樂寺)	青山 祐一 (赤穂組光明寺)
同朋の会推進部門	内藤 和裕 (赤穂組明顯寺)	西堀 秀行 (神戸組教泉寺)
教学・研修部門	後藤 功 (赤穂組西教寺)	谷川 法海 (安芸南組圓光寺)
社会問題部門	房常 晶 (美作組本教寺)	中杉 隆法 (神戸組西林寺)
広報・情報発信部門	上岸 佑介 (第4組光専寺)	藤谷 真 (第3組西教寺)

教区教化テーマ

創造 と 回復

— 温もりのあるお寺をともに! —

真宗大谷派 山陽教務所

〒670-0044 兵庫県姫路市地内町1番地
TEL(079)292-3690/FAX(079)292-1747



教区ホームページをご覧ください

<http://sanyo-kyoku.jp>

Facebook @sanyokyoku

Twitter @sanyokyoku_koho

E-mail sanyo@higashihonganji.or.jp